（第三種郵便物認可）　千葉日

視標　新型コロナ大流行

青年海外隊 国内農業協力

千葉の隊員も 緊急帰国後 群馬で奮闘

新型コロナウイルスの影響で任地の開発途上国から緊急帰国した国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊員らが、キャベツの生産量日本一で知られる群馬県嬬恋村で奮闘中だ。人の役に立ちたいという隊員の思いと、深刻な人手不足に悩む農家のニーズがマッチ。これまで13人が、日ICAを通じて隊員を募集。5月、応募してきた県内の5人を農家に派遣した。6～7月には千葉や滋賀県などからも隊員が集まった。矢島代表は農家と勤務条件の交渉や、宿泊施設の確保に奔走した。

最盛期には午前2時ごろから収穫を始め、休憩を挟みながら、箱詰めなど午後5時近くまで作業が続く。ベナンから帰国し、6月から働いている東京都台東区の大河原花子さん(27)は「突然の帰国でもやもやしていたが、日本でも役に立てることができてうれしい」と笑顔を見せた。

プロジェクトは農繁期の10月末までの予定。矢島代表は「協力隊は地域の課題を現地の人と一緒に解決するのが使命で、場所が日本でも海外でもやることは同じ。地域の懐に飛び込んで、少しでも成長の機会にしてほしい」と話した。

キャベツの収穫作業を行う青年海外協力隊員の大河原花子さん＝3日、群馬県嬬恋村

夜収穫作業に励んでいる。

プロジェクトは同県甘楽町のNPO法人「自然塾寺子屋」が始めた。農業技術の啓発や指導などを行う同法人は、協力隊の派遣前研修を20年以上請け負ってきた。矢島亮一代表(56)は、3月に全隊員の緊急帰国が決まった際に「任期半ばで帰国し、再び戻れるかもわからない。日本でも何か地域貢献をさせてあげられないか」と考えた。

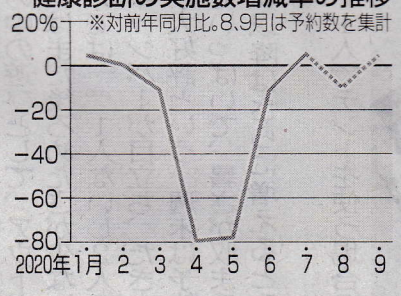
嬬恋村に来るはずだった外国人技能実習生が、新型コロナウイルスの影響で3分の1ほどしか入国できず農家が困っていると新聞記事で知り、JICA

健康診断 4～5月8割減

7月以降は回復も 計画的受診呼び掛け

新型コロナウイルス感染症の影響で、健康診断の受診者数が昨年に比べ落ち込んでいることが14日、関係団体の集計で分かった。特に緊急事態宣言が発令された4～5月は8割近く減少した。団体は、本年度末までに全体で1割程度減少する可能性があるとして「健診は定期的に受けることで、病気の早期発見や予防につながる。ぜひ計画的に受診してほしい」と呼び掛けている。

健康診断の実施数増減率の推移



調査は、事業者健人間ドック、学校健どを実施する機関が する日本総合健診医 と、全国労働衛生団 合会が、加盟する健 ンターなどを対象に 8月に実施。180機 回答した。

それによると、今年 9月の健診受診者数（ 9月は予約数を集計） 1400万人で、前年 に比べ約700万人（ 4％）減少した。ただ 月（79・4％減）、5月 ・9％減）の落ち込み ークに7月以降は受診 が回復しており、特に 実施することが多い学 診の実施が目立つ。

団体は、健診センタ どの受付件数に限界が ため、本年度末時点で 割程度減少となると見 でいる。